

オンライン展覧会「和から洋へ 一女性たちはどう着替えたかー」を開催します

川崎市市民ミュージアムは、令和8年10月9日（金）から、オンライン展覧会「和から洋へ 一女性たちはどう着替えたかー」を開催します。

かつてきものが日常着だった日本では、いま多くの人が着用している洋服も新しいものでした。明治時代のはじめに西洋文化が入ってくると、男性は制服や仕事着として洋服を着用するようになりますが、女性の洋装化はすぐには進みませんでした。女性が洋服を着用することの背景には、社会の変化だけでなく新しい生き方を模索した女性たちの姿がありました。

本展では、浮世絵や写真、衣服などの当館収蔵品を中心に、日本における女性の装いがきものから洋服へと移り変わる過程を紹介します。



「見立多以尽 洋行がしたい」
大蘇芳年 画 明治11年

【開催概要】

開催期間：令和8年10月9日（金）10:00 ～ 令和9年3月31日（水）15:00

料 金：無料（申込不要）

主 催：川崎市市民ミュージアム

【展示構成】

◆ 第一章 和装があたりまえだった時代 ーハイセンスな日常ー

洋装が広まる以前の装いを紹介します。

◆ 第二章 洋装の登場 ー社会進出する女性たちー

洋装は上流階級から職業婦人、学生へと広まり、大正時代にはモダンガールが登場しました。女性の社会的地位や職業と洋装化のつながりを紹介します。

◆ 第三章 統制される装い ー選べなかった時代ー

戦時下、物資不足と衣料統制が進み、服装には「質素・実用」が求められました。限られた資源のなかで衣服を工夫する生活と洋装化との関係を紹介します。

◆ 第四章 “おしゃれ”としての装い ー作るものから買うものにー

戦後には既製の普及により「おしゃれ」として装いを楽しむようになります。洋服が日常服として定着する過程を紹介します。



防空頭巾をかぶった少女
戦時期



スリーピース 昭和30年代

本展覧会は、市民ミュージアム Web サイト内の

「the 3rd Area of “C”-3 つめのミュージアム-」で御覧いただけます。

<https://www.kawasaki-museum.jp/thirdarea/>



【問合せ先】川崎市市民文化局

川崎市市民ミュージアム 古泉 かいずみ

電話：044-712-2800（外線のみ）